

会 長 方 針

新たな誇り、新たな奉仕
“いま私たちにできること”



会 長 草 野 興 三
幹 事 河 村 勝 久

2000年～2001年度、国際ロータリー、フランクJ、デブリン会長は、我々へのメッセージの中で地球上のあらゆる所で適切に対処されずに放置されている問題が沢山あり、ロータリアンはそれを見過ごすことなく何かをする、ということを確認に意識し行動してほしいと、呼び掛けております。私達の使命は、「意識を喚起し一進んで行動を」と。私もこれに共鳴し上記の如きテーマといたしました。

本年度は、丁度20世紀から21世紀という新しい時代に劇的に移行する時に当り、私自身、自ら心の引き締まる感があります。

世紀末の現在、ロータリーは最も多難な時代を迎えていると言われますが、此々でもう一度、ロータリーについて考える機会を持つべきでありましょう。

この20世紀は、民族、国家の激しい争いにより人類は滅亡の危機にさらされました。又、自然破壊によって地球の汚染も留まることなく進み、気象や健康にもはかり知れない影響を及ぼしました。果たして、次世代にバトンタッチ出来る美しい地球が存在するのか、暗い気持ちで空を見上げることさえあります。しかし、そのような厳しい20世紀の初頭に誕生したロータリーは瞬く間に多くの人々の共感を得て、アメリカのロータリーから世界のロータリーへと広がって行きました。そのロータリーのたくましい精神と、輝かしい数々の人道的活動の歴史を振り返り、そしてこぶしクラブの素晴らしい奉仕活動を振り返り、ロータリアンとして、こぶしクラブのメンバーとして、新たな誇りと自覚を持ち、新たな気持ちで、奉仕活動に積極的に取り組んで行かなければならないと思います。そして、いま私達に出来る事をクラブ、地域社会、広い世界において、各々の委員会を中心とした、時代の変化に対応した個性豊かな活動を期待いたします。

1986年に創立したこぶしクラブはいよいよ15周年を迎えることとなります。これ迄歴代会長をはじめ、会員の皆様のご苦勞と、純粋な熱い想いが、明るく和やかな、楽しく活動できる今日のこぶしクラブを育てて来たものと思います。これからもさらにメンバーの融和のもと、善良な思いやりのあるクラブとして、いま私達にできることを推進させましょう。

さて、今年度は地区リーダーシッププランの全面的な導入にともない、我がクラブから新藤会員がガバナー補佐に指名されました。又金丸会員が多摩中グループで幹事に就任されました。この事は、こぶしクラブにとっても誠に名誉なことでもあります。お二人の活躍を祈り、クラブ全体でバックアップをしたいと思っております。皆様のご支援とご協力を是非お願い申し上げます。

最後に今年度の目標を記します。

心のなごむ例会を目指そう。ロータリーに関する広報を促進しよう。

青少年の善行にもっと光を。多摩川、多摩川上水等、自然環境保全を。

子供達の為、ポリオの最終段階の援助を。子供達の為、対地雷廃絶の理解と援助を。

子供達の為、飢餓の現場には食糧の確保を。こぶしクラブ創立15周年事業の成功を。

多摩中グループのIMを成功させよう。共に信じあうよろこびを大切にしよう。

2、0、0、1 (TWO, O u, O u, O n e)!